

PRIMUS® P-157

プリムス・P-157インテグストーブ
カートリッジガスこんろ(直結型)

屋外使用専用 取扱説明書

注意

●この製品はアウトドア用に開発された屋外使用専用の直結型カートリッジガスこんろです。●ご使用中は大量に酸素を消費しますので屋内、車内、テント内では絶対に使用しないでください。一酸化炭素中毒死や酸欠により窒息死する危険性があります。●屋外であっても換気の悪い場所(洞窟、窪地等)では十分に注意してご使用ください。●使用中、使用直後は器具が大変熱くなっておりますので、火傷には十分ご注意ください。また、お子様が手を触れないようご注意ください。●山行やキャンプ等で実際にご使用になる前に必ず器具と容器(ガスカートリッジ)が正常に動作することを確認してください。●圧電点火装置はご使用になる環境によってうまく動作しない場合があります。実際の山行やキャンプでは、念のため、必ず予備のマッチやライター(電子着火式で無いもの)を携帯してください。●P-157は1~3人用を想定して設計されていますので、大型の鍋やヤカン等は使用できません。必ず小型の鍋やヤカン等をご使用ください。過酷な使い方、特殊なご使用をされますとケガや火災など思わぬ事故になったり、本体が破損したりする恐れがあります。

この度は、プリムス・P-157インテグストーブをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。本製品の機能を十分にご理解いただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みいただいた後はいつでもご覧になれる場所に保管してください。ご使用になる前に容器(ガスカートリッジ)に表示されている注意事項も必ずお読みください。

■本製品をご使用いただく際に、特に注意していただきたいこと

警告



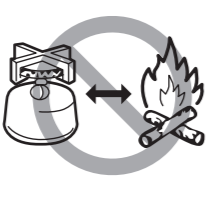
本製品は屋外専用です。屋内、テント内、車内では絶対に使用しないでください。一酸化炭素中毒死や酸欠により窒息死する恐れがあります。風通しが良く、周囲に引火物・可燃物のない場所でご使用ください。



バーナーを市販の風防、天ぶらガードや石などで絶対に囲まさないでください。熱が滞留し、ガスカートリッジが加熱され爆発する危険があります。



市販のセラミック製品や鉄板、焼き網などをシングルバーナーに絶対に使用しないでください。輻射熱が下方にも放出しガスカートリッジが加熱され爆発する恐れがあります。また、ダッチオープンやスモーカー(燻製器)にも使用しないでください。



火気の近くでは使用しない。火気や熱源からの輻射熱により、ガスカートリッジが加熱され、爆発する危険があります。



引火物、可燃物の近くで使用しない。引火や加熱により爆発する恐れがありますので、必ず2m以上離して使用してください。また、防水スプレー、殺虫剤などのエアゾール製品も引火の危険があるので絶対に使用しないでください。



ガスカートリッジの装着は器具を垂直に、また締めすぎないように行ってください。斜めに傾けているとガスが勢よく噴出し危険です。また、ねじ込む際に過大な力で締め込むとガス漏れや故障の原因となります。



火をつけたまま側を離れない。本製品に火をつけたまま側を離れると思わぬ事故の原因となりますので、必ず消火してから離れるようにしてください。特に酸素中毒死、窒息死等につながる恐れがあります。



バーナーをこんろ以外の目的に使用しない。本製品は暖房器具ではありません。暖房や衣類の乾燥など、本来の使用目的と異なった使い方は思わぬ事故(火災、一酸化炭素中毒死、窒息死等)につながる恐れがあります。

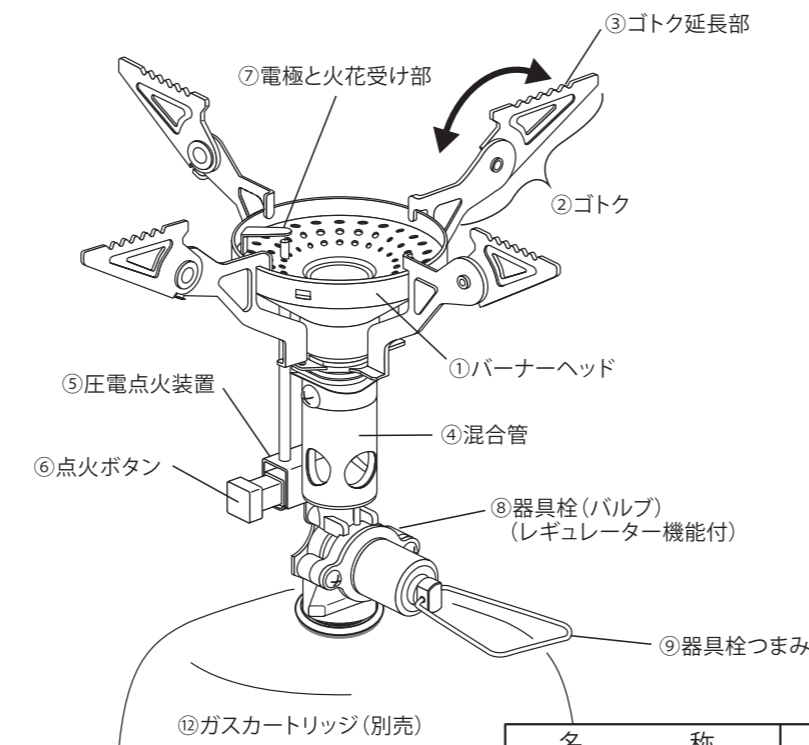
注意 火傷にご注意ください。使用中、使用直後は器具(特にバーナーヘッドやゴトク)が大変熱くなっています。

ヤケド注意

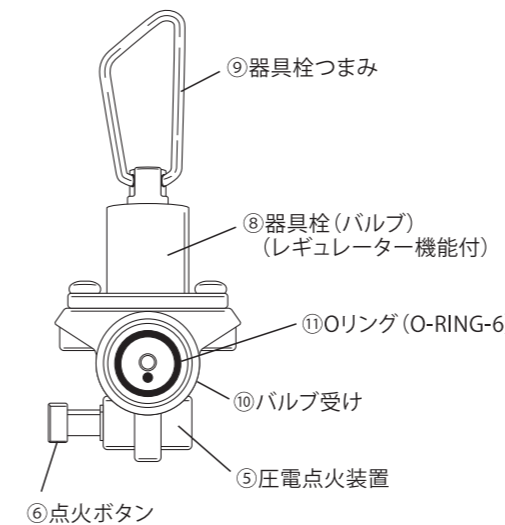
ガスの性質について

ガスは液体から気体に変化する時に気化熱を必要とします。従って低温時や、液体ガスの温度が外気温を下回った場合、気化熱を得られなくなるため、カートリッジ内にガスがあっても「火力が弱い」「ガスが出てこない」という現象が発生します。その場合の対処法としてガスカートリッジを体温で温めたり、新しいガスカートリッジに交換することで使用できる場合がありますが目的の外気温に合ったガスカートリッジをご使用ください。ガスカートリッジには、Gタイプ(春夏用: 20℃以上)、Tタイプ(オールシーズン: 0℃以上)があります。詳しくは当社ホームページ(www.iwatani-primus.co.jp)をご覧ください。

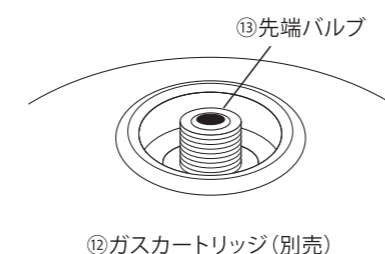
各部の名称と働き



〈器具栓(バルブ)を下から見た図〉



名称	働き
①バーナーヘッド	空気と混合されたガスを燃焼する部分
②ゴトク	回転して収納可能な4枚ゴトク
③ゴトク延長部	折り畳んで収納可能なゴトクの延長部
④混合管	ガスと空気を混合させる管(空気取り入れ孔)
⑤圧電点火装置	大きな電流を発生する点火装置の本体
⑥点火ボタン	圧電火花を飛ばすための点火操作ボタン
⑦電極と火花受け部	圧電火花を飛ばす部分とその受け部
⑧器具栓(バルブ)	ガスを調節し、遮断する弁(レギュレーター機能付き)
⑨器具栓つまみ	ガスを調節・遮断するつまみ
⑩バルブ受け	ガスカートリッジを接続する受け口
⑪Oリング	ガスカートリッジと器具をシールする特殊ゴムパッキン
⑫ガスカートリッジ	ガスが充填されている容器(別売)
⑬先端バルブ	器具を接続するためのガスカートリッジ側の弁



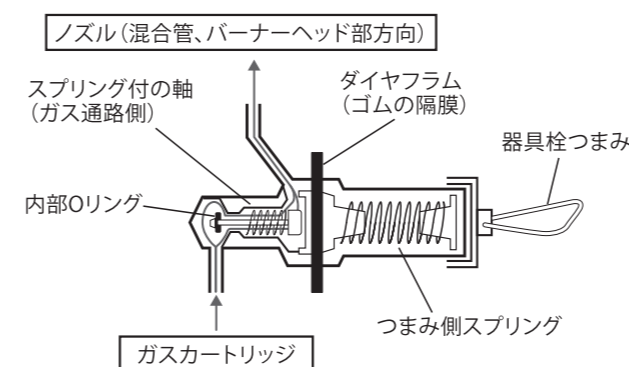
レギュレーターについて

本製品は、器具栓(バルブ)にレギュレーターを内蔵しています。レギュレーターは、噴出するガスを適切に調整する機能を持っています。

レギュレーターの構造

器具栓つまみを開くとつまみ側のスプリングの力でダイヤフラムの反対側にあるスプリング付の軸を押すことで、内部Oリングで密閉されていた部分に隙間ができ、ガスがノズル(混合管・バーナーヘッド部方向)へ流れ込むようになります。

器具栓(バルブ)内部の概念図



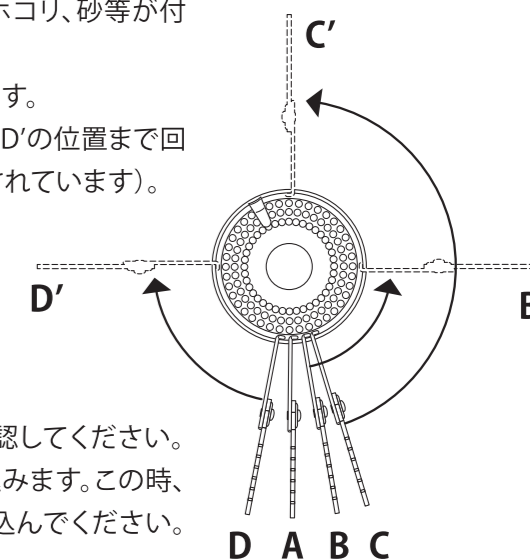
ガスカートリッジから入ったガスの圧力でダイヤフラム(ゴムの隔膜)を押す(概念図の右方向)ことで、スプリング付きの軸が概念図上の右方向に動き、ガスの通路をやや狭めます。ノズルからガスが混合管、バーナーヘッドへ流れ、ガスが消費されることでダイヤフラムを右方向に押ししていた力が弱まり、スプリング付きの軸(ガス通路側)が左側に動き、ガスの通路を確保します。

これらの一連の動きが高速で行われることでガスの流量が適正に調整されます。この動きにより、ガスカートリッジ内部の圧力が高めの時に過剰に出ようとするガスを抑制し、気化熱によるガスの出力低下をある程度抑える効果があります。また低温時にはガスの通路を確保し、ノズルから出るガスの絶対量を増やそうとします。

器具の使用法

器具の組み立て

- 組み立てる前に、必ず器具栓部のバルブ受けやOリング等の箇所にゴミ、ホコリ、砂等が付着していないことを確認してください。ある場合は取り除いてください。
- 器具栓つまみを引き起こして「各部の名称と働き」の図の様にセットします。
- 重なっている4枚のうち3枚のゴトク(B、C、D)を右図のようにそれぞれB'、C'、D'の位置まで回転させて、しっかりと固定されるところまで広げます(Aのゴトク位置は固定されています)。
- ゴトク延長部を開いてください。



容器(ガスカートリッジ)の装着方法

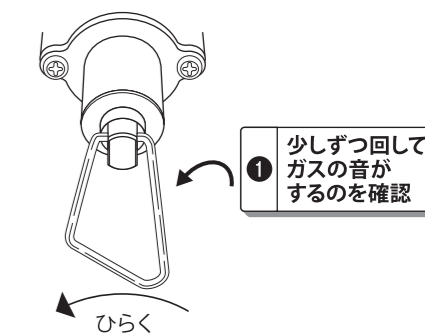
- 容器(ガスカートリッジ)のキャップを取り外します。取り外したキャップは保管の際に必要ですので捨てないでください。
- 器具栓つまみを右(時計の回転方向)に回し、完全に閉じていることを確認してください。
- 容器先端バルブが、こんろのバルブ受けに入るように正しくセットしねじ込みます。この時、無理にねじ込まず容器を回して自然に止まるよりややきつめ程度にねじ込んでください。また、容器は斜めにしないで必ず正立の状態ですぐに取り付けてください。
- 容器の装着が完了したら、必ず器具が水平になる場所に設置してご使用ください。

注意

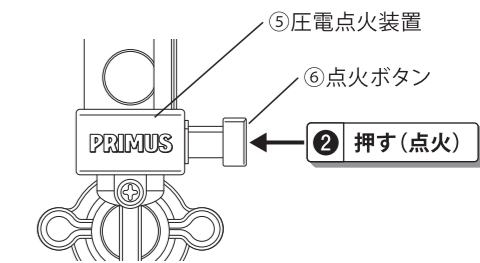
容器(ガスカートリッジ)内部は気層と液層に分かれており、通常は気層から出るガスを空気と混合させて燃焼させます。ガスの残量確認のために容器を振ったり、落下等の衝撃を与えた後は、この気層と液層が不安定になり、こんろを取り付けて器具栓を開いた時に液状のガス(白い霧状の気化していないガス)がそのまま噴出することがあります。この液状のガスに着火すると非常に大きな炎となり大変危険です。その場合は一旦消火して容器を平たんな場所に置き、2~3分ほど放置して容器内の気層と液層を安定させてからご使用ください。

操作のしかた

●点火: 器具栓つまみを左(時計の逆回転方向)へ少しずつ回し(1)、ガスの出ている音がシューっとしたら点火ボタンをパチンというまで押し込む(2)かライター等でバーナーに点火します。一度で点火しない場合は続けて数回操作してください。(ガスを勢よく出しすぎると点火しづらくなります。)



- レギュレーターを搭載していない従来型のこんろに比べ、つまみを少し多めに回す必要があります。ガスが出ているシューっという音が聞こえることを確認してから点火を行ってください。
- レギュレーター搭載のため、同じガスカートリッジでも、気温が高い時などに内部のガスの圧力が高い場合は、ガスの圧力が低い場合に比べ、つまみを少し多めに回す必要があります。
- ガスカートリッジが温度の高い場所に保管され、内部のガスの圧力が異常に高くなっている場合には、レギュレーターの機能によりガスが出なくなります。この場合、ガスカートリッジ内部のガスの温度が下がり、ガスの圧力が低くなるまでしばらくお待ちください。



警告

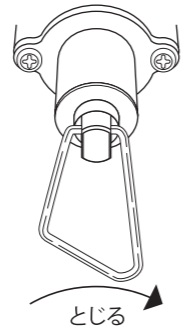
- 使用中は大量の酸素を消費しますので、換気には十分ご注意ください。テント内・車内等の狭い空間で使用すると一酸化炭素中毒死や酸欠による窒息死の危険があります。必ず屋外で使用してください。
- 点火の際は、バーナーを上からのぞき込まないでください。顔に火傷を負う危険があります。





- 鍋等の材質によっては、ゴトクの上で滑りやすいものがあります。使用中も手で保持するなど、鍋がゴトクから落ちない様に注意して使用してください。この際ヤケドには十分に注意してください。
- ゴトクに安定して設置できない鍋等は使用しないでください。

- 消火：器具栓つまみを右(時計の回転方向)へ回し、火が消え、ガスが出る音が無くなるまで完全に閉じてください。この時、確実に消火したことを確認してください。



□ 収納方法

1. 使用後は器具が大変熱くなっておりますので、収納する場合は必ず本体が十分に冷めるまで待ってから行ってください。
2. 器具栓が完全に閉じていることを確認し、器具から容器を取り外します。次に、それぞれのゴトクを器具の組み立ての逆の手順で回転させて閉じ、器具栓つまみを倒してから付属の収納袋に仕舞ってください。

□ 異常時の処置

- 万一異常燃焼を起こした時や緊急の場合は、あわてずに器具栓つまみを閉じて消火してください。また、器具はそのまま使用せず、即座に使用を中止してください。

□ 故障・異常の見分け方と処置方法

故障かなと思ったら……次のことをお調べください。

原因	点火しない(しにくい)	バーナーに火移りしない	点火花が飛ばない	炎が不揃い	火力が弱い	使用中に消火する	消火しない	処置方法
ガスが少なくなっている	○	○			○	○		容器を新しいものと交換する
バーナーの目詰まり	○	○		○	○	○		金属ブラシ等で詰まりをとる
ノズルの目詰まり	○	○			○			点検・清掃を依頼する
点火電極間距離の不適切	○		○					点検修理を依頼する
点火器の絶縁不良	○		○					点検修理を依頼する
点火電極の酸化	○		○					点検修理を依頼する
点火操作が不適切	○	○						正しい操作を行う
器具栓の故障	○	○					○※	点検修理を依頼する

□ 日常の点検・手入れ

- 定期的に器具の点検・手入れを必ず行ってください。
- 実際に登山やキャンプへお出かけになる前に、器具と容器(ガスカートリッジ)を接続して正常に動作するか動作確認を行ってください。また、この点検は必ず屋外で行ってください。
- 本体が雨または夜露で濡れた時や煮てぼれをしたときは「着火しない」「正常に燃焼しない」場合があります。特にバーナーヘッドの中まで水分が入ってしまった場合は着火しませんので、ご使用になる前に乾いた布等で水分を取り除き、十分乾燥させてからご使用ください。

左記の事を調べのうえ、なお異常がある場合や、お分かりにならない時は、お買い求めの販売店または当社までご連絡ください。

※周囲の安全に注意してガスが無くなるまで燃やし続けてください。この時、突然爆発する危険もありますので、周囲の人を避難させ、安易に近づかないようにしてください。火力が増す場合や周囲のものに引火した場合は、放水や消火器等による消火等の緊急処置をとってください。事後、販売店または当社にご連絡ください。

- 器具栓にあるOリング(ゴムパッキン)は消耗品です。経年劣化等で弾力が無くなりシール性が弱くなるとガスカートリッジ接続時のガス漏れの原因となります。定期的に点検し、亀裂や摩耗等で劣化している場合は速やかに、また通常の場合は1~2年を目安に交換してください。Oリングの交換につきましてはお買い求めになった販売店もしくは当社にご相談ください。
- 故障または破損したと思われる場合は即座に使用を中止して、お買い求めになった販売店もしくは当社まで点検を依頼してください。
- 実際の山行やキャンプでは、不測の事態に備え予備の器具やガスカートリッジをご用意ください。
- お客様ご自身による修理は危険です。万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買い求めになった販売店もしくは当社にご相談ください。

□ 長期間使用しない場合

- 長期間使用しない場合は、各部の汚れを取り、付属の収納袋に入れて湿気の少ない場所に保管してください。
- 容器(ガスカートリッジ)は、キャップが付いていることを確認してから、風通しの良い40℃以下の場所に保管し、時々点検して、缶にサビが発生している場合には出来るだけ早く使い切ってください。
- 器具本体と容器(ガスカートリッジ)を接続したままの状態での保管することは絶対にしないでください。
- 長期保管後に再使用する場合は、必ず器具が正常に動作することを確認してください。部品の劣化等で使用に問題がある場合は即座に使用を中止し、お買い求めになった販売店もしくは当社にご相談ください。

□ 仕様

品名	カートリッジガスこんろ(直結型)	収納寸法	7.3×10.1×4.7cm
商品名	プリムス・インテグストーブ	ゴトク径	最大148mm
型式名	P-157	重量(本体)	約100g
出力	3.3kW/2840kcal/h(IP-250Tガス使用時)	点火方式	圧電点火装置
ガス消費量	220g/h(IP-250Tガス使用時)	使用容器	IWATANI-PRIMUS「IP-250」「IP-500」
燃焼時間	約62分(IP-250タイプガス使用時)	生産国	日本

※出力は気温25℃で10分間燃焼させた時のデータをもとに算出、ガス消費量は30分間燃焼させた時のデータをもとに算出しています。

□ アフターサービス

- お買い求めいただきました製品には万全を期しておりますが、万一不備な点がございましたら、製品をお買い求めになった販売店もしくは当社までご連絡ください。
- この製品には生産物賠償責任保険が付いています。ただし、他社製のガスカートリッジを使用した場合、ならびに再充填されたガスカートリッジを使用した場合の事故につきましては補償対象外となります。
- 製品の部品保有期間は製造を終了した時点もしくは当社WEBサイト上の掲載が終了してから5年間となります。
- この製品は付属品を含め、改良のため予告なく仕様を変更することがあります。
- 製品に添付されている製造番号記載の「銘板プレート」は正規品であり適合性検査に合格していることを証明するものですので、取り外したり捨てたりしないでください。「銘板プレート」の無い製品は当社ではアフターサービスを提供できませんのでご注意ください。

□ 経年劣化について

本製品の器具栓内部にはOリング以外にもゴム部品が使われています。ゴム部品は使用の頻度に関わらず、年月とともに劣化していきます。製品製造後、10年を目安にお買い替えをご検討くださいますようお願い申し上げます。

□ 連絡先

イワタニ・プリムス株式会社 〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14-17
ホームページ: www.iwatani-primus.co.jp

イワタニ・プリムスお客様サポート E-mail:otoiwase@iwatani-primus.co.jp TEL:03-6667-0680

特に注意していただきたいこと

このページにはプリムスの燃焼器具(全般)をご使用になるための重要なことが説明されています。

ご使用前に

警告

各燃焼器具にはIWATANI-PRIMUSの表示のある「IP-250」もしくは「IP-500」の専用容器(ガスカートリッジ)を使用してください。その他の容器(ガスカートリッジ)は絶対に使用しないでください。

なぜ? 専用ガスカートリッジ以外の容器はガスが出るバルブの形状、ノズルの太さ等規格が異なります。この基本設計の違いにより、他のガスカートリッジを使用されるとガス漏れが発生したり、ガスに引火したり、火災事故につながる場合があります。

警告

焼けた砂(砂液)や河原の上や舗装道路面等では使用及び放置しないでください。

なぜ? 炎熱の焼けた砂液や河原、舗装路面は非常に高温になっています。ここにガスカートリッジを直接置きますと、ガスカートリッジが加熱されカートリッジ内部の圧力が異常に上昇し、爆発することがあります。

警告

各燃焼器具は屋外専用です。屋内、テント内、車内では絶対に使用しないでください。一酸化炭素中毒死や酸欠により窒息死します。

なぜ? プリムス製品は、屋外での使用を前提に設計されています。使用中は酸素を大量に消費するため、屋内で使用されると一酸化炭素中毒死や酸欠により窒息死します。また、火災の危険性もあります。

ご使用中に

警告

バーナーでの炭の火起こしは絶対にしないでください。

なぜ? バーナーを炭の火起こしに使用すると知らないうちにガスカートリッジを加熱していることになり、爆発を引き起こす危険性があります。

警告

1つの調理器具に2つ以上のバーナーを使用しないでください。(片側のみ使用の場合は特に危険です)

なぜ? バーナーを2つ以上組み合わせて使用すると、お互いの燃焼炎でカートリッジを加熱しあったり、炎の巻き込みで熱が滞留したりすることになり、カートリッジ内部の圧力が異常に上昇し、爆発することがあります。

警告

周囲に引火物、可燃物がないことを確認し、器具と容器(ガスカートリッジ)の取付け・取外しは、必ず器具栓つまみが閉じていることを確認してから行ってください。

なぜ? カートリッジと器具を取り付けたり、取り外したときは多少ガスが漏れます。周囲に使用中(燃焼中)の器具や焚き火、タバコ等火気がありますと引火する危険があります。また、器具栓が開いているの知らずにガスカートリッジを取り付けますと、いきなりガスが噴出し、引火する危険性もあります。

注意

燃えやすいものから上部は1m以上、周囲30cm以上離して使用してください。

なぜ? 風によって強力な火力は周囲に影響を与える範囲も広くなります。特に上方向には相当な熱が降り注ぐので周囲に十分注意を払ってご使用ください。また、テーブルクロス、ビニールクロス等を使用しないでください。火災事故につながる場合があります。

注意

ガスカートリッジの装着はバルブを垂直に、また締めすぎないように行ってください。

なぜ? 新品のガスカートリッジには液状のガスが上部まで入っています。したがって、斜めに傾けて取り付けますと液状のガスが勢いよく噴出しますので危険です。必ず周囲に火気がないことを確認して、垂直に取り付けてください。カートリッジと器具を接続するネジはとも大切な部分です。斜めに無理にねじ込んだり、過大な力で締め込んだりするとガス漏れや故障の原因となります。

注意

バルブ(器具栓)内のOリングは、時々点検し、切れ目があつたり摩耗や劣化したりしている場合は新しいものと交換してください。

なぜ? カートリッジと器具を接続する部分にはOリングが使用されています。Oリングは取付け・取外しをしているうちに摩耗したり、古くなって弾力が無くなりシール能力が低下したりし、ガス漏れが発生する場合があります。

注意

市販のセラミック製品や鉄板、網などをシングルバーナーに使用しないでください。また、タッチオープンやスモーカー(燻製器)にも使用しないでください。

なぜ? セラミック製品、鉄板、網などの調理器具やスモーカーは輻射熱が多くなり、熱が滞留しやすくなっています。バーナーで使用されますと、直結の場合は輻射熱が直接ガスカートリッジにあたるため、内部の圧力が上昇し、爆発することがあります。分離型の場合でも器具を接触させることがあります。

注意

バーナーを市販の風防、天ぶらガードや石などで絶対に囲まなくてください。

なぜ? バーナーとガスカートリッジを風防や石などで囲みますと、熱が滞留し、ガスカートリッジが加熱されていきます。カートリッジは加熱されると内部の圧力が異常に上昇するため、爆発することがあります。

注意

火がついたまま持ち運ばないでください。また、容器(ガスカートリッジ)をつけたまま保管することは絶対にしないでください。

なぜ? 火がついたまま持ち運ぶと、ガスカートリッジが揺られて異常に炎が大きくなり、火傷する危険があります。また、保管中にショックが加わることによるガス漏れの発生、また長時間カートリッジと器具を装着状態にしておきますと、ガスカートリッジ接続部にサビが発生し、ガス漏れによる火災が発生する場合があります。

注意

必ず平たんな場所に水平に設置して使用してください。

なぜ? コッヘルや鍋等が滑り落ちたり、器具の転倒したりする原因になります。

こんろをこんろ以外の目的に使用しないでください。

こんろは暖房器具ではありません。

なぜ? こんろを衣類の乾燥や暖房など、本来の使用目的と異なった使い方は極めて事故(火災、酸欠による窒息死、一酸化炭素中毒死)につながる場合があります。

注意

警告

たとえ空になっても、容器(ガスカートリッジ)を火気や熱源(ヒーター、こんろ、ストーブ等)のそばに置かないでください。

なぜ? 空になったカートリッジでも微量のガスが残っています。これを火の中に投げたり、熱源の近くに置いたりすると、容器の内部圧力が上がり、爆発する危険性があります。

注意

容器(ガスカートリッジ)は40℃以下の場所で保管してください。(法律によって規定されています)

なぜ? 外気温が上昇するとカートリッジ内の圧力も例として上昇します。カートリッジを炎天下や、直射日光に当たる車内(トランクルーム含む)や室内に放置したりすることも爆発の原因になります。

注意

お客様による修理や改造は絶対にしてはいけません。

なぜ? ガスの流れる部分には非常に精密に作られています。器具の改造は能力の低下になるばかりではなく、不完全燃焼、異常燃焼、ガス漏れ等事故の原因にもなりかねませんので絶対にしないでください。修理に関しては販売店、弊社にご相談ください。

表示内容

警告：誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを表す記号です。

注意：誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される、および物的損害の発生が想定されることを表す記号です。

◯ 禁止マークです。